



Echo No.158

令和2年 秋彼岸

院 寺 寺
峰 福 林 禅
一 禅 禅 宗
* * * *
羽村臨済会

今日のつとめに

「この秋は雨か嵐か知らねども

今日のつとめに田草とるなり」

これは二宮尊徳によって詠まれた歌です。来る秋には大雨や台風で田畑に大きな被害があるかもしれないが、今はとにかく草取りなど、目の前のやるべき作業をしっかりやっておこう、という意味でしょう。「どうせ台風でダメになるから何をやったって意味無いさ」と諦めていては、何も収穫出来ません。今やるべきことをしっかりと、私たちが禅の教えそのものでもありません。

二宮尊徳は幼くして両親を亡くし、親戚の家で働きながら作業の合間に捨てられた稲の苗や菜種を空き地に植えて収穫し、年々収益を増やしてわずかな間に田畑を買い戻して家を再興しました。銅像のように歩きながら本を読んだかは定かではありませんが、儒教や仏教を熱心に勉強してその知識も生かし、関東から東北地方にかけて六百もの農村の復興を成し遂げた偉人です。「万物にはすべて良い点（徳）があり、それを活用する（報いる）」という尊徳の思想は「報徳」と呼ばれて

います。報徳二宮神社の銅像には

「経済なき道徳は戯言であり、道徳なき経済は犯罪である」

とあります。コロナ禍でのマスクや消毒液等の買占め、転売はまさにそのとおりではないでしょうか。

現在、コロナの嵐が世界中を吹き荒れています。この秋、冬にはウイルスが変異して毒性が強くなって、第二、第三の嵐がやってくるとも言われています。

しかし過去のケースを見ても、これが永遠に続く訳で無い事は分かっています。いつの日か、「コロナの時は大変だったね」と振り返れる日が必ず来る筈です。

コロナの更なる嵐を前に、今私たちがやるべき事は、マスクの着用、手洗い、うがい、対人距離をとる、免疫力を高める為に規則正しい生活をする。買占めにならない程度に少しずつ必要な買い物をしておく、感染者を差別しない、等でしょうか。もう少し皆で頑張りましょう！

（禅林 恭山）